

この連載では、県内企業の産業活動に役立てていただくため、沖縄産有用植物の生理機能を紹介しています。

今回はソウシジュの葉に含まれる機能性成分についてです。ソウシジュ（相思樹、*Acacia confusa* Merr.）はフィリピン原産の常緑の大高木で、台湾やマレーシアなど、東南アジア地域で広くみられます。沖縄では街路樹等としても植栽されており、毎年5月頃、黄色く小さな花が密に満開となるので、ご存知の方も多いことでしょう。



工業技術センター内のソウシジュ

実はこのソウシジュ、台湾では伝統的な薬用植物として利用されていて、創傷の治癒薬や抗うつ血薬として用いられることがあります。そのため含有成分に関する研究もいくつか行われていて、これまでに葉や樹皮、心材、花から抗酸化能を示すポリフェノール類が多く報告されています。ポリフェノールにはたくさんの種類が知られていますが、その一種であるフラボノイドは様々な生理機能が報告されており、抗酸化能のほかにも皮膚や骨などに対する抗老化作用が注目されています。

当センターではソウシジュに含まれるポリフェノール類の機能性を活用した新たな化粧品素

参考文献

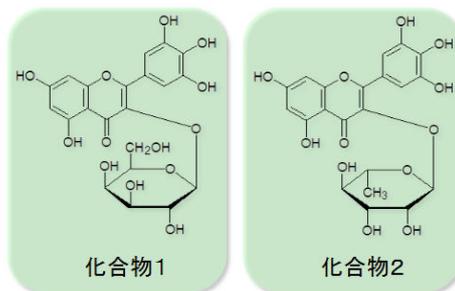
堀田満他編「世界有用植物事典」平凡社／財団法人海洋博覧会記念公園管理財団編「沖縄の都市緑化植物図鑑」／平成 20 年度沖縄県工業技術センター研究報告 pp.1-5／平成 19 年度沖縄県工業技術センター研究報告 pp.61-63／平成 18 年度沖縄産学官共同研究推進事業「熱帯植物のエストロゲンを活用した天然機能性化粧品の開発」成果報告書

材の開発を目的として、葉の成分研究を行いました。葉の 50%エタノール抽出物については、これまでの研究で美白作用の指標となるチロシナーゼ阻害活性や抗老化作用の指標となるエストロゲン様活性が報告されていたので、含有成分についてさらに詳しく調べました。



ソウシジュの葉(葉柄)

その結果、葉の 50%エタノール抽出物から複数のフラボノイドが単離されました。それらのうち化合物 1 と 2 は、MS 及び NMR データから、図に示す構造のミリセチン配糖体であると同定しました。化合物 1 はソウシジュから初めて単離されたもので、化合物 2 とともにチロシナーゼ阻害活性を示しました。



ソウシジュという名は中国語名の「相思樹」からきているようです。詩的な名をもつ県産植物が、機能性素材として活用されることを期待しています。